地域で守り続ける灯火

令和8年 ホタル祭り

5月23日～30日、竹迫城跡公園周辺で上庄魅力化推進委員会がホタル祭りを開催しました。

ことしで12回目を迎えるホタル祭り。多くの人が訪れ、ホタルの幻想的な光に見入ったり、「ほう、ほう、ホタルこい」と口ずさんだりする姿が見られました。

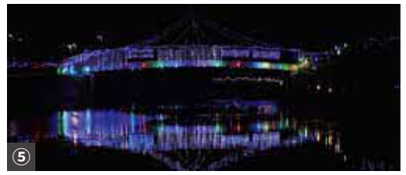
ホタルは、委員会が中心となり、子ども会や小学校と協力して、生息環境の保全と育成に取り組んでいます。

イルミネーション飾り文字標語に込められた思い

ことしは、42作品の標語応募がありました。その中から加藤（かとう）ののかさんの作品『12回ホタルまつり　川とホタルを守る上庄』が選ばれました。

加藤さんは「4年生のときにホタルの生態や環境を守る活動を学び、この景色が見られるのは、環境を整えてくれる人たちがいるからだと知りました。これからも、川とホタルを守る活動に参加して、次の代へとつなげていきたい」と話しました。

加藤さん（合志小6年生）



お知らせ

①ホタル（5枚合成）
②③開会式の様子
④⑤竹迫城跡公園周辺のイルミネーション
⑥イルミネーションを見る人たち
⑦ホタルを観察する人たち
⑧ホタル（3枚合成）

戦国時代の緊迫感を今に伝える

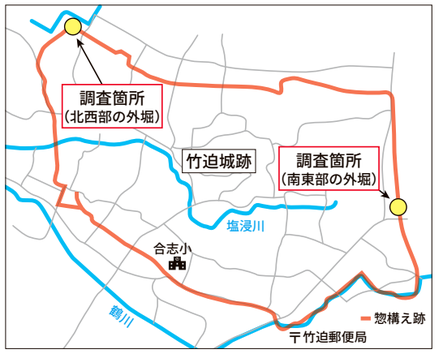
竹迫城惣構え跡発掘調査

①② 逆台形で深さがある惣構え跡
③ 複数の種類の土を組み合わせたことが分かる土塁の断面

群雄割拠の戦乱の世に竹迫の町を守っていた『惣構え』

合志氏が治めていた戦国時代末に築かれた竹迫城の防御施設『惣構え』。城と周辺の町や村を堀や土塁で囲み、その規模は1周約6キロに及ぶ九州屈指の大きさです。

このたび、中九州横断道路と『合志ICアクセス道路』の整備に伴い、県が竹迫城惣構え跡の発掘調査を行ないました。



随所に敵の侵入を防ぐ工夫

北西部の発掘調査では、幅約10メートル、深さ約7メートルの外堀が見つかりました。逆台形で急斜面という構造は一度落ちると逃げたり登ったりしにくく、「敵の侵入を確実に防ぐ」という狙いが見てとれました。

土塁は、粘度の高い土を積み重ね、崩れにくいよう工夫していました。城造りの工法を知る当時の知識人が指示し、時間と労力をかけて造ったのではないかと考えられます（写真④・⑤）。

深い谷を埋めた大規模造成工事

南東部の発掘調査では、最も深い所で約4メートルの盛土を行ない、その後堀を構築していたことが分かりました。この場所の北側の地形は3メートル以上高く、『惣構え』は堀底が調査地まで下がって繋がっていたと考えられます。ここから南側の鶴川へと繋がり、竹迫の町を囲う守りとなっています（写真⑥）。これまで未確認だった南東部の『惣構え』の一部の位置が明らかになり、今後の竹迫城跡の全体像の解明に近づくことも期待されます。

見るだけで学べる『文化財の解説動画』

▲市ホームページ 文化財解説動画

本市の歴史や文化財を簡単に学べる動画を公開しています。ぜひご覧ください。

●問い合わせ先　生涯学習課（ヴィーブル内）
☎096－248－5555

調査を行なった県文化課
花田（はなだ） 杜綺（ときさん）

調査では土器や陶磁器の破片のほか、くつわを付けた体長約1.3メートルの馬の骨も墓穴から見つかりました。とても丁寧に埋葬されていましたが、その理由は分かりません。

今回の調査は『惣構え』跡の一部です。まだまだ謎の多い竹迫城や『惣構え』跡を解明する手掛かりになればと思います。